

合理的配慮の実践

藤井寺市 リーディングチーム

分数の掛け算・割り算の場面で（小学校）

× 児童の実態

- ・ 学習したことが覚えられない
- ・ 約数の意味が理解できていない
- ・ 板書を写すことが遅い
- ・ 途中でしていることがわからなくなる

・ 配慮点

- ・ 約数が見つけられない→約数表
- ・ 九九によって色分け→見つけやすく
- ・ $1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 3 \cdot 1 \cdot 5 \cdot 2 \cdot 5$ →よく使う段

教材

約數	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81
11	11	22	33	44	55	66	77	88	99
12	12	24	36	48	60	72	84	96	108
15	15	30	45	60	75	90	105	120	135
25	25	50	75	100	125	150	175	200	225

約分表 名前_____

テストの場面で（中学校）

× 児童の実態

- ・ 弱視
- ・ 遠視
- ・ 知的障がい

▪ 配慮点

- ・ 通常学級と同じテストを受ける支援の必要な生徒（弱視遠視・知的）に対して、事前に問題用紙を拡大して漢字にすべてルビを振って取り組ませる。

※特に指示がなければ、句読点も一字に含むこと。

二、次の文章を読んであと問いに答えなさい。

一、(☆)考えられるのは、クジラは、塩分の多い海水を飲むことがで

きるのではないかと考えた。

三確かにクジラの体は、海環境に適応して体の形やはたらきがいろいろに変化した。液体中の塩分は海水と同じような割合になつていないし、海水を淡水に変えるような体のはたらきも備わつていない。つまり、飲み水に關しては、陸にすむ哺乳類とほとんど変わらず、クジラも海水を飲んで喉のかわきをいやすことはできないのである。

三第一に考えられるのは、クジラは食べ物となる生物の体の中に含まれる水分を利用しているのではないかとということである。

四クジラの食べ物となる動物フランクトンや魚介類の体は八〇パーセント近くが水でできている。この水分を飲み水の代わりに利用するという方法である。陸上の哺乳類でも、アフリカの乾燥地帯にすむアタククスなどは、食べ物にする植物に含まれている水分に頼つて生活している。

五けれども、クジラにはこの方法は使えない。それは、含まれる塩分の量が、植物と動物とは違つからである。植物に含まれる塩分の割合は非常に少ない。これに対して、クジラの食べ物となる動物フランクトンやイカなどの体液は、塩分の割合が海水とほぼ同じなのである。

六クジラは、捕らえた食べ物を口の中や喉でぎゅつと絞つて、海水は吐き出し、食べ物だけを胃に送つている。実際、クジラの胃を調べてみると、食べ物は絞つて固められた状態で入つており、海水はほとんど含まれないのである。

七そうなると残された道は、クジラが自らの体内で水を作るということにならな

八一般に動物は食べ物を消化して、脂肪や炭水化物やタンパク質を分解する。そのときにエネルギーと水ができるのだ。クジラはこの水を利用してゐるのである。特に脂肪が体内で分解されるときには、炭水化物やタンパク質に比べ、多くの水が生まれる。幸運なことに、クジラの食べ物には多量の脂肪が含まれているのである。

九また、クジラの体には多くの脂肪が蓄えられている。(A)、食べ物

を口しないときも、クジラはこの脂肪を分解して水を得ることができ

るのである。砂漠にゐるラクダも、背中のこぶにためた脂肪を分解して水を得ることによつて、長時間水を飲まずに暮らすことができる。

十(B)、食べ物や体内に蓄えた脂肪から、あり余るほどの水がで

るわけではない。この貴重な水分を有効に使うため、クジラの体はできるだけ余分な水分を失わないようになつてゐる。

十一陸上の動物の場合、体の水分が失われる要因としては、呼吸・発汗・排せつ

の三つがある。だが、海洋では水蒸気が比較的多く、湿度が非常に高いので、呼吸によつて失われる水分の量はさきわめて少ない。また、クジラには汗腺がないため、汗によつて水分が失われることはない。したがつてクジラの場合、貴重な水分は主に排せつによつて失われることになる。これももつたない話のように思える。けれども、尿を出すことは、どうして体内に取り込んでしまふ余分な塩分や老廃物を排出するという重要な役目を果たしているのである。

十二このように、クジラは人間と同じ哺乳類でありながら、「飲み水」としての水を飲むことがない。生きるために必要な水は自分の体内で作

1 (☆)に入る適当な言葉を書きなさい。

2 一線部①「食べ物となる生物」とはどのようなものですか。文中から十五字以内で抜き出しなさい。

3 一線部②「この方法は使えない」について、
A. この方法とはどのような方法ですか。二十字以内で書きなさい。
B. なぜ「使えない」のですか。十字以内で書きなさい。

4 一線部③「自らの体内で水を作る」とはどのようなことですか。次の空欄に適切な言葉を入れなさい。

(a) や炭水化物やタンパク質を (b) するとき水ができること。

5 一線部④「幸運」とはどのようなことですか。適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、クジラは食べ物に含まれている水を利用できること。
- イ、クジラにも利用できる水があること。
- ウ、クジラの食べ物には塩分を多く含むこと。
- エ、クジラの食べ物には脂肪が多いこと。

6 本文中の(A)(B)に入る適当な言葉を次から二つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア、また
- イ、つまり
- ウ、しかし
- エ、だから

7 一線部⑤「砂漠にゐるラクダ」とクジラの共通点は何ですか。「脂肪」「水を得る」という言葉を用い、文末が「……点」となるようにして二十字以内で書きなさい。

8 一線部⑥「クジラの体は……になつてゐる」について、

A. できるだけ余分な水分を失わないようになつてゐるのはなぜですか。三十五字以内で書きなさい。
B. 主にどのようにして水分を失つてゐるのですか。「主に……」に続く形で十五字以内で答えなさい。

9 本文には次の一段落が抜けています。この段落が入る前の段落番号を答えなさい。

それでは、塩分を多く含んだ食べ物を海水と一緒に食べてもクジラは平気なのかという疑問をもつ人がいるだろう。

(クジラの飲み水) 大隅清治より

学習の始めの場面で（小学校）

× 児童の実態

- ・ 学習に集中して取り組むことができない。
- ・ 課題に対して自信が持てない。

・ 配慮点

- ・ 1時間の内容をカードで提示し、自己決定をする。その際に選んだ理由を聞く。
- ・ 一番最後の方にするものを決め、理由を聞く。

かんじ
かくしゅう

目の
うんどう

せん
むすび

九九の
れんしゅう

ジャイケン
3回かつ

かんじ
パズル

本よみ

自由
遊び

くじを

あてよう。